



財団法人柳田國男・松岡家
顕彰会記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原 1038
の12
電話：0790-22-1000

新年あけまして

おめでとーいございます

旧年中は当記念館に対し、ご支援、ご協力いただき、誠にありがとうございました。

本年も皆様に愛される記念館を目指し、催し等を企画・運営をしてまいりますので、

どうか昨年同様、皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

そして、本年も皆様にとつて素晴らしい一年であります

ように、心からお祈り申し上げます。



版圖 岩田健三郎 作

福崎の方言

年末はいかがお過ごしだったでしょうか。

年末と言えば、福崎でも使われている言葉に「セワシナイ」があります。これは「あわただし、せわしい」という意味です。

「年末でせわしない」、「新学期が始まりせわ

しない」。などと使います。

年も改まり、ゆったりと過ごせるようにしたいものですね。

『播磨中部の方言』によると、もともとは「あわただしい気分を表現する関西の方言だったと思われるが、現在では全国区となりつつある」とされています。

歳時記

だまり正月

(正月二十日)

正月の二十日には、土地によって色々の名がある。この日ひもじい思いをする、一年中食に飢えるという処も四国

などにあるのを見ると、むしろ粗末なものでも思い切つて、飽食すべき日ではなかったかと思う。

正月二十日はたくさん食べるべき日であったという柳田國男の説。



「正月二十日の棚さがし」という諺は、随分広い区域に亘つて聞くことだが、これは必ずしも食べるものを掻き集めるというだけでなく、麦飯正月と名づけて麦飯をうんと食ひ、或は出雲の大原郡のように、麦畠の上に糞をしいてその上に転がり、唱え言をするのを見ると、乞食にまで正月をさせるほどの食物の豊かなるべき日であったことが察せられる。信州の上田附近で

は正月二十日をだまり正月と言ひ、この日は一日黙つてゐるがよいという。理由はまだ判らぬが、或はこの飽食の風と関係があつたのではないかと思つてゐる。

(柳田國男「歳時小記」より)

信州上田附近でこの日は黙つてゐることが推奨されるが、この日にたくさん食べる風習と関係があつたのではとも柳田國男は推測している。

大庄屋三木家工事が始まりました

昨年からは始まつた大庄屋三木家の改修工事。今は、表の厩を撤去しています。まず、厩の上に素屋根をかけ、雨に濡れないようにしてから瓦を一つずつ外します。壁も撤去したあと柱の軸組みから過去の痕跡調査をします。これらは全て手作業です。



素屋根で覆われた厩(うまや)

残しておいた瓦や柱には番付けをし、補修のときにそのまま使われます。今年はいよいよ主屋部分に取りかかります。

(財)柳田國男・松岡家顕彰会が解散し、記念館は町営になります。

(財)柳田國男・松岡家顕彰会は来年3月末日をもつて解散し4月からは町営として運営されます。地域の皆様に親しまれ愛される記念館が町営として実現できることを福崎町に依頼しております。皆様のご意見は直接、福崎町教育委員会社会教育課までお寄せ下さい。

22・0560
(内線256)

